

和歌山県知事指定郷土伝統工芸品

なちぐろすずり

# 那智黒硯

平成2年指定 / 指定された地域 (那智勝浦町)

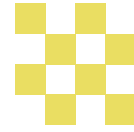
## 石を見て硯とする名匠の技

和歌山県でも有数の観光地として知られる那智勝浦町。世界遺産でもある熊野那智大社や那智山青岸渡寺をはじめ、落差133mと日本一を誇る那智の滝。さらに白浜と並んで人気を集める日本屈指の温泉も有名です。かつてこの地を訪れた旅人は、熊野詣の証として黒色で光沢ある那智黒石を持ち帰ったといわれています。それが時代を経て、人の技が加わり「那智黒硯」として生まれ変わりました。



山口光峯堂  
● 那智黒硯職人  
山口光峯さん

昭和19年生まれ、那智勝浦町出身。元祖那智黒硯として手彫りの伝統技にこだわる「山口光峯堂」の2代目。18歳で硯の世界に入り、父であり師である先代について、石を見る職人の目を養いました。大切にしているのは、石の持っている性格や性質を見極めること。石に対して素直に心を開き、石自身が語りかけてくる言葉に耳を傾けています。



## 熊野詣の証に持ち帰る漆黒の石

その昔、熊野詣の証として旅人が那智黒石を持ち帰ったのが最初とされるなら、歴史は平安時代にまでさかのぼります。古くから熊野地方で産出される那智黒石は、硯の材料として重宝され、書道家などから高い評価を受けてきました。明治の初めには、熊野那智大社と那智山青岸渡寺へと通じる石段の参道沿いに、硯を売る店が並んでいたといえます。現在、唯一の手彫りでの製造直売にこだわる「那智黒硯」を手掛けるのは、山口光峯堂の山口光峯さん。もともと初代が製材関係の仕事で、門前町であるこの地に入入りし、賑やかな人の流れを見て商売を決意。昭和の初めには、参道沿いに工房を設けて、硯を作りはじめたそうです。

## 新婚旅行の記念に名前入りの硯

参道沿いで硯づくりが盛んだったのが、昭和40年代。紀伊半島を海沿いに走る紀勢線の全線開通で、白浜町や那智勝浦町が大いに賑わい、全国各地から観光客が訪れていました。読み・書き・そろばんが教育の基盤だった時代。誰もが硯を求め、さらに新婚旅行のカップルたちは、こぞって硯に名前を入れて、記念のお土産にしたといえます。7軒ほどの硯屋の中で、手彫りの那智黒硯にこだわっていたのは山口光峯堂だけ。当時、山口さんの工房は、初代が機械彫りの考案者ということもあり、機械と手彫りの併用。2代目が“人の心を打つものを作りたい”と、昭和55年頃から手彫りを中心に移行し、今では山口さんと3代目になる息子さんのみが、手彫りの那智黒硯の技を継承しています。



## 身も心も癒す那智黒硯の使い心地

那智黒石の漆黒は、ぬれたような光沢をもっています。緻密な石質と適度な硬度で、よく墨に馴染むと珍重される逸品。従来、原石は那智山に連なる大雲取山脈、また北山川の流域でも産出したそうです。現在は、三重県との県境に位置する山間の神川町神上地区から、採掘されています。専門的には、非常に粒子が細かい水成岩。日本国内で、硯石の原産地は48カ所ありますが、黒さと細工のしやすさで、この石に勝るものはないと山口さんは言います。「色と肌触りで、身も心も癒してくれる那智黒硯。墨をすれば一度で、その使いやすさを実感できるはずです。」

## 【那智黒硯の制作工程】



硯づくりは石の選別から始まります。中でも稀にしか採れない玉石は希少。化石や砂粒の核で周囲の母岩より固く球状になっています。

まずは原石を大きめに形成。木の柄の付いたノミを何種類も使い分けて、原石の形を生かしつつ、硯の海や丘の部分荒削りします。



原石を生かしたバランスと美しさ。玉石を使った手彫りの作品は最も荒目と細目の砥石で、ひたすら磨き上げます。この作業で2日間、工程のほとんどをここに注ぎます。

玉石を使った手彫りの作品は最後に2代目が仕上げ。蠟燭の原料にもなるイボタを塗布して被膜を作り、艶出し。光峯の銘を入れます。

## 試しずりでまろやかなすり味を実感

皇室献上の貴重な那智黒硯のほか、歴代の総理にも納めたという豪華な意匠の細工硯も、店内に展示されています。和歌山県名匠であり、2003年日本文化デザイン大賞などを受賞した2代目の作品も、所狭しと並んでいます。その中でも最近では、癒しということにこだわった手彫りの那智黒硯が評判。那智黒石の中でも希少とされる玉石を使った作品で、まろやかなすり味が魅力です。「硯は、石を見ると書きます。ですが目で見て、それだけで判断するのは、とても難しいことです。だからこそ、買い求める時は必ず、試しずりをして納得のできるものを選んでください。」山口光峯堂がほかと異なるところは、必ず試しずりができるということ。「硯は一生もの。大切にすれば次の代にも受け継がれます。」



昭和37年に天皇・皇后両陛下に献納した那智黒硯と同じもの。(写真上・左下)  
歴代の総理大臣にも贈られています。(写真右下)